

大地申第 16 号  
2018 年 3 月 13 日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社  
支社長 中村知久 殿

東日本旅客鉄道労働組合  
大宮地方本部  
執行委員長 森田勝美

## 「平成30年度大宮総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ

大宮地本は、大宮支社より「平成30年度大宮総合車両センター業務量等について」提案を受け、関係組合員と議論を行ってきました。

平成30年度の大宮総合車両センターの業務量については、定期検査及び転用改造をはじめとした工事等による入場両数が減少することから、年間業務量も減少すると示されています。主な改造工事として4年ぶりの全検入場となるE26系カシオペアのリニューアル工事含む3件の新規件名が予定されています。カシオペアについては経験者が少なくなっている中、図面を早い段階で示すことや事前教育の充実を求める声があげられるなど、スケジュール感を持ち技術継承できる体制が求められています。

また、一車完結についても実施以降、職場議論を積み上げている中、委託割合の見直しに伴う教育体制における成果がある一方、一車完結と言われているが作業範囲が限定される実態や、受け持ちの割り振りにおける認識の違い、業務が輻輳した場合における体制の課題があげられています。

業務量や工事内容が変化し、世代交代が進む中においても働きがいを持てる職場、安全で質の高い車両を提供できる職場の構築を目指し、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

### 記

1. 平成30年度業務量の提案が遅れた根拠を明らかにするとともに、秋ごろに決定している車両検査や改造工事などを前広に情報提供すること。
2. 平成29年度業務量交渉において委託割合を変更したことや業務量調整を行ったことによる成果と課題を明らかにすること。
3. 改造班が主に機器更新工事に偏っていることから、大掛かりな改造工事の実施と技術継承できる教育体制を確保すること。
4. 指定保全の体制変更を行った根拠を明らかにすること。また、人材育成における課題及び、変更後の成果を明らかにすること。

5. チェックリスト電子化の導入に対する経緯を明らかにし、課題の解決をおこなった後の導入とすること。
6. カシオペアの全検入場における課題を明らかにすること。また、経験者が少ないため十分な準備時間を確保すること。
7. 直流主電動機修繕工事の委託を拡大する根拠を明らかにし、これに伴う若年出向は行わないこと。また、異動が発生する場合は本人希望を尊重すること。

(車体科)

1. 185系・651系の老朽化に伴い鉄工班で発生する対策工事における課題を明らかにすること。また、209系の腐食対策において十分な工程を確保すること。
2. C57形ATS統合装置搭載・デジタル列車無線取付改造工事の施工内容を明らかにすること。また、未だ工事の施工箇所が決定されていない為、決定以降の議論時間を確保すること。

(部品科)

1. 電気等の専門知識を有する社員の配置を行うこと。
2. 指定保全の台車において制輪子交換が安全に行えるよう専用サイドピッドを設置すること。

(東大宮センター)

1. 現行のセクションでは、14番線・15番線での作業が非効率になっている為、14番線のピット線の断路器を設置すること。また、15番線に輪重測定器のセンサーを設置すること。

以 上